

河川生態学術研究（紹介）

Introducing the River Ecology Research (Report)

研究第四部 次 長 池 内 幸 司

研究第四部 研 究 員 沼 田 佳 久

研究第四部 主任研究員 垣 本 充 生

生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的として「河川生態学術研究」が生態学や河川工学などの研究者と建設省との共同研究として実施されている。平成7年度から多摩川永田地区および千曲川鼠橋地区において、平成10年度から木津川京田辺地区において、さらに平成11年度からは北川の河口から熊田地区において、それぞれ研究グループが組織され、調査研究が進められている。また、各研究グループの代表らから構成される、河川生態学術研究委員会において調査研究に関する検討が行われている。

平成11年度は、各研究グループによる合同研究発表会が東京で開催され、千曲川研究グループおよび木津川研究グループの研究成果を中心に研究発表が行われた。また、多摩川研究グループでは、ファーストフェーズの研究が終了したことから、これまでの調査研究成果をとりまとめた論集が作成されており、その成果は日本生態学会大会自由式シンポジウムにて発表された。

本稿では、主に河川生態学術研究の目的、研究対象河川、活動状況等について紹介するものである。

キーワード：河川生態学術研究、研究会、多摩川、千曲川、木津川、北川

The "River Ecology Research" is being conducted with the purpose of understanding the rivers from an ecological perspective and determination of the ideal states that they should attain by ecologists, river engineers and Ministry of Construction. Respective research groups have been organized to conduct studies in the Nagata District of the Tama River and the Nezumi-bashi District of the Chikuma River in fiscal 1995, the Kyotanabe District of the Kizu River from fiscal 1998, and then the Kita River, from the mouth to the Kumata from fiscal 1999. The River Ecology Research Group consists of representatives from each research group, to discuss the study and research items.

In fiscal 1999, River Ecology Research Group gained following results. A Corporates Publication Session by each research group took place in Tokyo. Publication was done focused on the research results of the Chikuma River Research Group and the Kizu River Research Group. The Tama River Research Group finished the first phase of their study and thus, have been editing their papers on the first phase results. Those results were publicated at the Free styli Symposium of the convention of The Ecological Society of Japan.

This paper will mainly focus on the purpose of the river ecology research, the rivers that are target of research and the status of activities.

Keywords: River Ecology Research, Workgroup, The Tama River, The Chikuma River, The Kizu River, and The Kita River.

1. はじめに

河川の管理は、従来、水害の防止、水資源の確保など治水・利水を中心とする国土基盤の整備に重点を置きながら行われてきた。しかし、近年国民の自然環境あるいは生活環境に関する関心が高まってきている。このような中、建設省では平成6年1月環境政策大綱を定め、建設事業において環境を内部目的化することを謳った。さらに、平成7年3月には、河川審議会より「今後の河川環境のあり方について」の答申を得ており、河川行政において「生物の多様な生息・生育環境の確保」、「健全な水循環系の確保」等の視点を積極的に導入することとされている。また、平成9年には河川法が改正され、治水、利水に加え、河川環境の整備と保全がその目的に位置づけられた。

しかしながら、河川における自然環境に関する知見については未だ十分ではなく、これらに対する情報の蓄積と学問的な理解が不可欠な状況となっている。「河川水辺の国勢調査」が平成2年度よりを実施されているが、さらに河川の自然環境に対する理解を深めるための学術的研究が必要であり、「河川生態学術研究会」が実施されるに至った。平成7年度より多摩川と千曲川で、平成10年度より木津川で、平成11年度より北川でそれぞれ研究が開始された。

本稿では、主に河川生態学術研究の目的、研究対象河川、活動状況等について紹介するものである。

表－1 河川生態学術研究委員会*

Table 1 River Ecology Research Group

《委 員》	
氏 名	所 属
◎大島 康行	財団法人 自然環境研究センター理事長
沖野外輝夫	信州大学教授（千曲川研究グループ代表）
奥田 重俊	横浜国立大学教授
小倉 紀雄	東京農工大学教授（多摩川研究グループ代表）
小野 勇一	九州大学名誉教授（北川研究グループ代表）
川那部浩哉	琵琶湖博物館館長 京都大学名誉教授
桜井 善雄	応用生態学研究所長 信州大学名誉教授
玉井 信行	東京大学教授
辻本 哲郎	名古屋大学教授
中村 太士	北海道大学助教授
西村 登	兵庫陸水生物研究会代表
三島 次郎	桜美林大学名誉教授
水野 信彦	愛媛大学名誉教授
○山岸 哲	京都大学教授（木津川研究グループ代表）
和田英太郎	京都大学生態学研究センター長
（以上、五十音順）	
西島 浩之	建設省河川局河川環境課長
清治 真人	建設省河川局治水課長
宇多 高明	建設省土木研究所河川部長
佐合 純造	建設省土木研究所環境部生態保全技術研究官
島谷 幸宏	建設省土木研究所環境部河川環境研究室長
藤田 光一	建設省土木研究所河川部河川研究室長

◎委員長 ○委員長代理

平成12年3月現在

2. 研究の目的*

本研究は、生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的として実施されている。目的の達成に向けて、以下のようなテーマが設定され、研究が進められている。

- I. 河川流域・河川構造の変貌に対する河川の応答を理解する。
- II. 生物生息場所（ハビタット）の類型化とその変動（自然、人為による）あるいは適正な分布を明らかにし、今後の河道管理と流量管理の基礎資料を得る。
- III. 特定区間における生物現存量、生物種構成、種の多様性、物質循環、エネルギーの流れを明らかにし、河川生態系モデルを構築する。これらを用いて、河川的环境容量を推定し、今後の河川管理に資する。

IV. 河川に再自然化工法など環境インパクトを与え、その効果の影響を明らかにし、評価の手法を確立し、河川の自然復元の手法を探る。

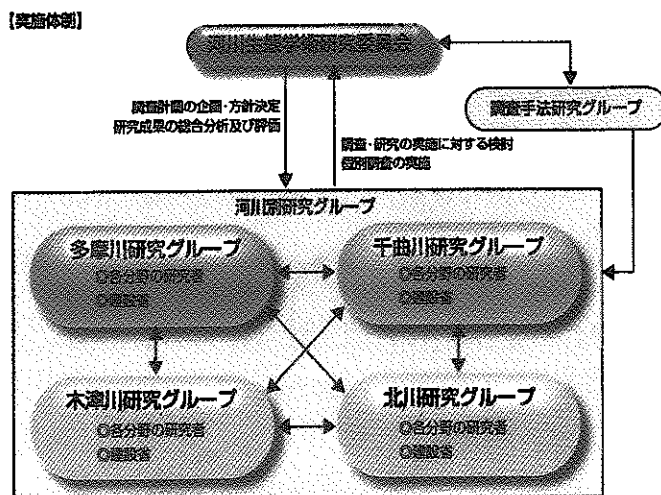
V. I～IVに関する結果を総合し、生態学的な観点より河川のあるべき姿を探る。

3. 実施体制*

研究は大学等の研究者と建設省土木研究所等との共同研究として、図－1に示す実施体制により、進められている。

4. 研究対象河川の概要*

河川生態学術研究の研究対象河川として、多摩川（永田地区）、千曲川（鼠橋地区）および木津川（京田辺地区）、北川（河口～熊田地区）の4河川が選定されている（図－2）。



図－1 実施体制*

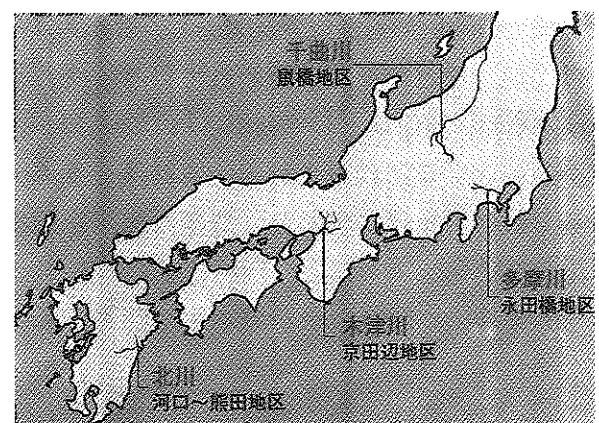
Fig. 1 Implementation

4-1 多摩川 永田地区*

永田地区は、右岸があきる野市、左岸が福生市・羽村市に接する延長約 1,600mの区間である。直上流に東京都の羽村取水堰があり、かなりの水量が取水されていたが、平成4年度より、下流への通年 $2\text{ m}^3/\text{s}$ の放流が行われるようになった。河道は一部に根固め等の護岸が見られるものの、低水路部については護岸が施されておらず、自然な水際線の形態を有している。

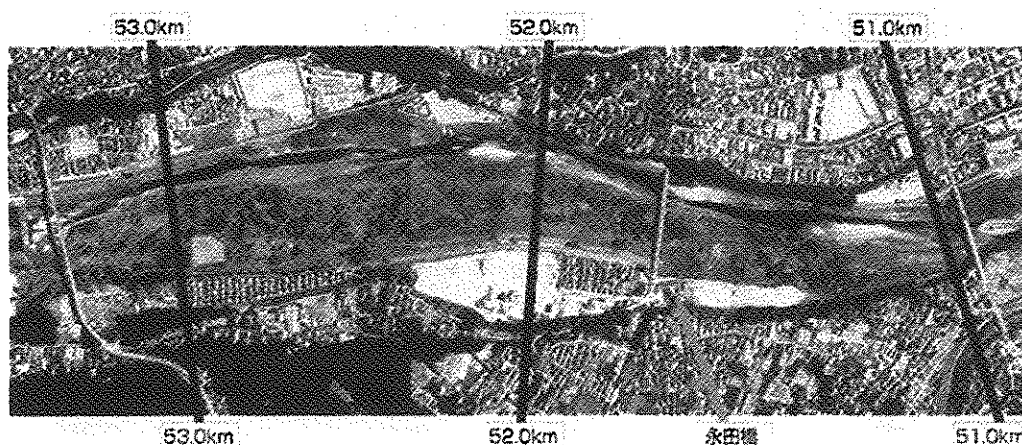
中流区間特有の砂礫の川原であるが、近年は、外来種のハリエンジュをはじめとする木本の繁茂が著しい。

右岸側は、草花丘陵と呼ばれる段丘崖に面しており、ここから多摩川への湧水が、高水敷付近に湧出し、湿地を形成している。このため、本川とは異なる生物相がみられる。この一帯は河川環境管理計画において「生態系保持空間」に位置づけられている（写真－1）。



図－2 研究対象河川位置図

Fig.2 Location of Subject Rivers



写真－１ 多摩川永田地区*

Photo 1 The Nagata-bashi District

４－２ 千曲川 鼠橋地区*

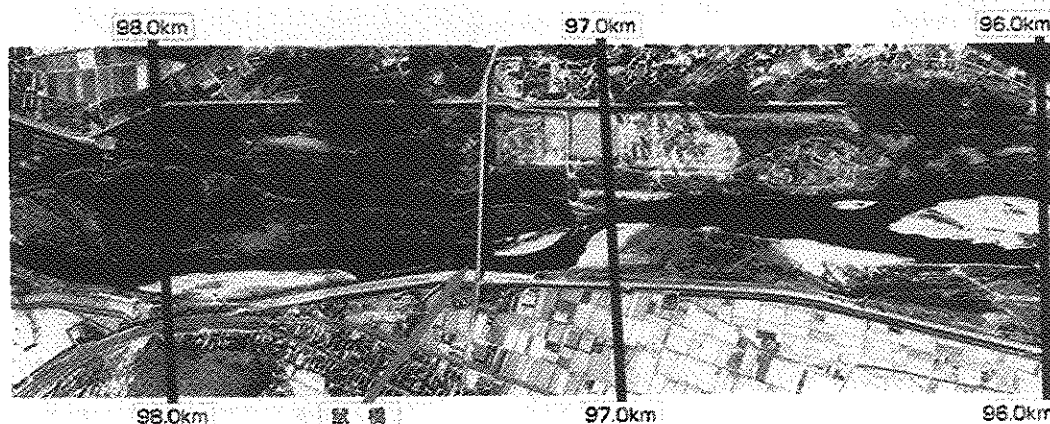
本地区は、長野県坂城町に位置する鼠橋を中心とした上下流約 2,000mの区間であり、上流側は上田市域となる。

川原は中流区間特有の砂礫で構成され、河道幅は約 400mと広く、規模の大きな中州や深く流れの速い淵も形成されており、昔から「つけ場漁」などの漁業が行われている。また、高水敷は、耕作地として利用されているほか、ハリエンジュに代表される木本群落やオギ・ヨシ群落が発達しており、豊かな河川空間を呈している。

水質は、年間降雨量が日本の年間平均降水

量と比較して少ないという集水域の気象特性に加えて、周辺山地の開発、河川上流域の都市化、農耕地の発達などの人為的な影響を強く受けている。そのために降雨後の河川水は濁りが多く、都市排水や農耕地からの栄養塩の流入により、河床礫面には付着藻類が発達している。さらに、上流域の下水道整備の立ち後れもあり、河川水は必ずしも清澄とはいえない。

本地区一帯は、河川空間管理計画では、「自然利用ゾーン」に位置づけられている（写真－２）。



写真－２ 鼠橋地区*

Photo 2 The Nezumi-bashi District

4-3 木津川 京田辺地区*

本地区は京都府に位置し、右岸が城陽市、左岸が京田辺市に接し、近鉄京都線橋梁を中心とする延長約2,000mの区間である。

河原には砂を中心とした広大な自然裸地が形成され、小～中規模のヤナギ林やツルヨシ群落などが散在するが、安定した植生の発達

に適さない状況である。また、止水域が点在し、生物の重要な生息・生育場所となっている。また高水敷は茶畑や野菜畑等の耕作地、竹林として利用されている。

河川空間管理計画では、本地区内の近鉄京都線橋梁付近の左岸が「整備ゾーン」に位置づけられている（写真-3）。

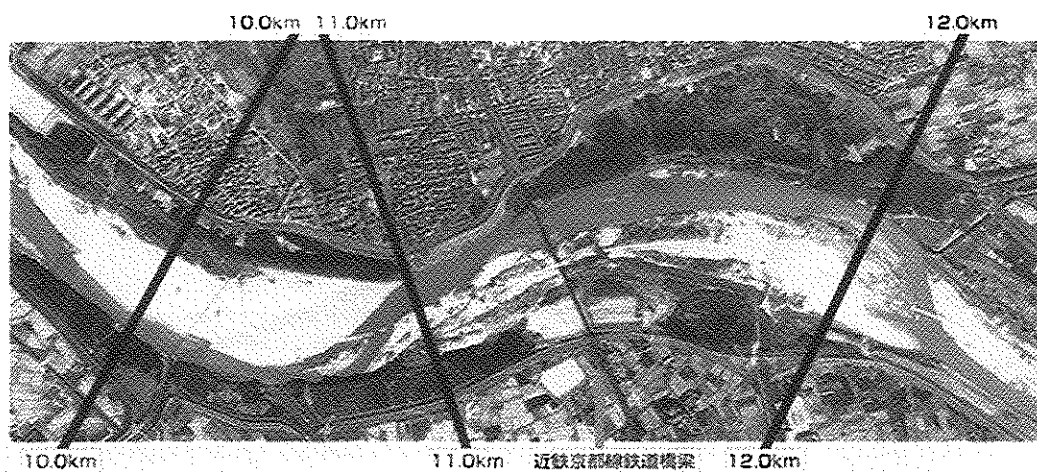


写真-3 京田辺地区*

Photo 3 The Kyotanabe District

4-4 北川 河口～熊田地区*

本地区は、下流側が延岡市、上流側が北川町に位置しており、河口から小川が合流する熊田地区までの約 15km の区間である。堤内池の状況は、河口から川島地区までの区間には川沿いに住宅地が見られるが、それより上流では主に耕作地として利用されるほか、山付き区間が多く見られ、カワセミやヤマセミが留まる姿がよく確認されている。河原にはツルヨシやジャヤナギ、エノキ等の植物群落が見られ、一部には古来から水防林として植栽されていた竹林も見られる。河口部では、希少甲殻類であるカワス

ナガニが生息、加えて多様な塩生植物が生育しており、ヨシ群落はオオヨシキリなどの鳥類の、コアモ群落は希少魚類であるアカメの幼魚の生息場となるなど、動物の生息場としても貴重な空間となっている。

北川沿川においては、平成9年9月の台風19号に伴う豪雨により、甚大なる被害が発生した。この洪水被害を契機として、河川激甚災害対策特別緊急事業が平成9年度より実施されている。

本地区の河川空間管理計画では、川島、二ツ島地区周辺が「整備ゾーン」に位置づけられている。(写真-4)

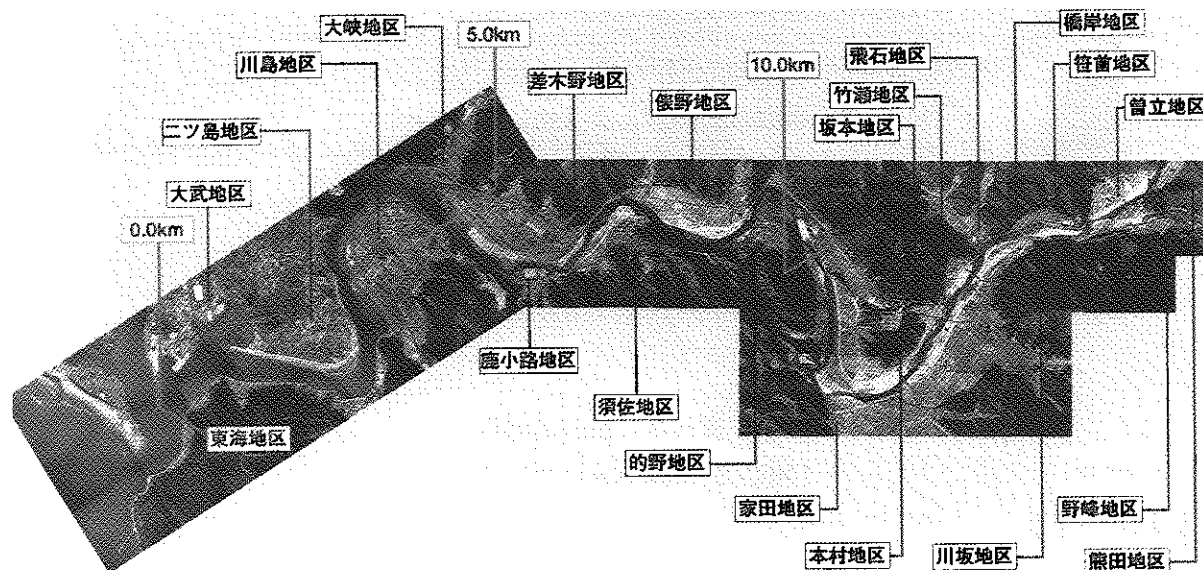


写真-4 北川河口部～熊田地区*

Photo 4 From the mouth of the Kita River to the Kumata

5. 活動状況

○河川生態学術研究委員会

- H 7. 7. 7 第1回委員会および現地視察
(長野市、千曲川)
- H 8. 4. 26 第2回委員会 (千代田区内)
- H 9. 1. 21 第3回委員会 (上田市内)
- H 9. 5. 13 第4回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H10. 2. 24 第5回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H10. 6. 9 第6回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H10. 11. 26 第7回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H11. 5. 7 第8回委員会
(木津川京田辺地区)
- H11. 12. 10 第9回委員会
(リバーフロント整備センター)



写真－5 河川生態学術研究委員会

Photo 5 River Ecology Research Group

○河川生態学術研究運営委員会

- H 9. 1. 9 第1回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H 9. 4. 24 第2回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H 9. 12. 4 第3回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H10. 5. 22 第4回委員会
(リバーフロント整備センター)

- H10. 11. 13 第5回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H11. 4. 30 第6回委員会
(リバーフロント整備センター)
- H11. 11. 26 第7回委員会
(リバーフロント整備センター)

○多摩川研究グループ

- H 7. 7. 7 第1回研究会および現地視察
(長野市、千曲川)
- H 7. 7. 19 第2回研究会
(リバーフロント整備センター)
- H 7. 9. 14 第3回研究会および現地視察
(多摩川永田地区)
- H 7. 11. 9 第4回研究会
(建設省土木研究所)
- H 8. 2. 28 第5回研究会
(リバーフロント整備センター)
- H 8. 4. 4 第6回研究会
(リバーフロント整備センター)
- H 8. 5. 8～5. 10 第1回合同現地調査
(多摩川永田地区)
- H 8. 6. 14 第7回研究会
(千代田区内)
- H 8. 9. 5 第8回研究会
(千代田区内)
- H 8. 10. 11 第9回研究会
(千代田区内)
- H 8. 11. 6～11. 8 第2回合同現地調査
(多摩川永田地区)
- H 9. 1. 10 第10回研究会
(千代田区内)
- H 9. 4. 4 第11回研究会
(建設省土木研究所)
- H 9. 5. 14～5. 16 第3回合同現地調査
(多摩川永田地区)
- H 9. 7. 12 第1回市民合同発表会
(福生市立第四小学校)
- H 9. 10. 9 第12回研究会
(千代田区内)

- H 9.11. 5～11. 7 第4回合同発表会
(多摩川永田地区)
- H10. 1. 9 第13回研究会
(千代田区内)
- H10. 4. 6 第14回研究会
(建設省土木研究所)
- H10. 5. 6～ 5. 8 第5回合同現地調査
(多摩川永田地区)
- H10. 7.17 第15回研究会
(千代田区内)
- H10. 9.26 第2回市民合同発表会
(福生市立第四小学校)
- H10.11. 6～11. 7 第16回研究会および第
6回現地合同調査
(福生市内)
- H11. 1. 8 第17回研究会
(千代田区内)
- H11. 3.17 第17回幹事会
(千代田区内)
- H11. 4. 5 第18回研究会
(建設省土木研究所)
- H11. 6. 4～ 6. 5 第7回合同現地調査及び
第19回研究会(多摩川永田地区)
- H11. 9. 6～ 9. 7 河川環境モニター調査
(多摩川河口～小河内ダム)
- H11. 9.10 第1回編集会議
(千代田区内)
- H11. 9.30 第19回研究会(千代田区内)
- H11.10. 9 第3回市民合同発表会(福生市
立第四小学校)
- H11.10.13 第2回編集会議
(リバーフロント整備センター)
- H11.12. 8 第3回編集会議
(リバーフロント整備センター)
- H12. 2. 4 第4回編集会議
(リバーフロント整備センター)
- H12. 2.16 打合せ会議
(リバーフロント整備センター)
- H12. 3.22 第5回編集会議
(リバーフロント整備センター)



写真－6 合同現地調査

Photo 6 Joint Survey



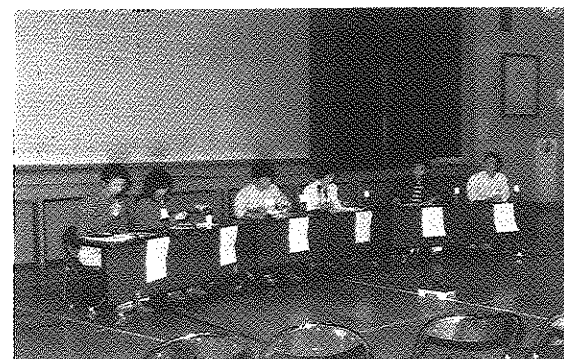
写真－7 合同現地調査

Photo 7 Joint Survey



写真－8 河川環境モニター調査

Photo 8 Monitor Survey of River Environment



写真－9 市民合同発表会

Photo 9 Scene From Joint Civic Presentation

○千曲川研究グループ

- H 7. 7. 7 第1回研究会および現地視察
(長野市、千曲川)
- H 7. 9.13 第2回研究会 (長野市内)
- H 7.12. 1 第3回研究会 (長野市内)
- H 8. 8.28~8.29 第4回研究会
(上田市内)
- H 8.11.21 第5回研究会 (上田市内)
- H 9. 1.21 第6回研究会 (上田市内)
- H 9. 3. 5~ 3. 7 第1回合同現地合同調査
(千曲川鼠橋地区)
- H 9. 6. 7 第7回研究会 (上田市内)
- H 9.10. 1~10. 3 第2回合同現地調査
(千曲川鼠橋地区)
- H10. 1.23 第8回研究会 (長野市内)
- H10. 5.15 第9回研究会 (長野市内)
- H10. 6. 3~ 6. 5 第3回合同調査
(千曲川鼠橋地区)
- H10.11.21 第10回研究会 (上田市内)
- H11. 2. 6 第11回研究会 (長野市内)
- H11. 6.25 第12回研究会 (信州大学)
- H11. 7. 8~ 7. 9 第4回合同調査
(千曲川鼠橋地区)
- H11. 9. 9~ 9.11 第5回合同調査
(千曲川鼠橋地区)
- H11. 9.10 第13回研究会 (上田市内)
- H11.12.22 第14回研究会 (長野市内)
- H12. 2.10 第15回研究会 (長野市内)



写真-10 合同現地調査

Photo 10 Joint Survey

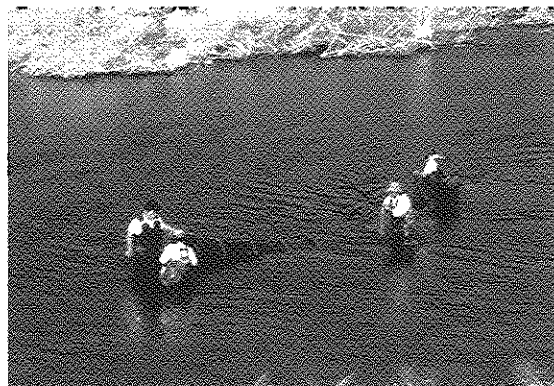


写真-11 ワンドにおける合同調査

Photo 11 Joint Survey in Backwater



写真-12 出水後の合同調査

Photo 12 Joint Survey After Flooding

○木津川研究グループ

- H10. 2. 5 現地視察会 (木津川京田辺地区)
- H10. 2.18 現地視察会 (木津川京田辺地区)
- H10. 5.21 現地視察会・計画会議
(第1回研究会)
(木津川京田辺地区)
- H10. 8.11 打合せ会議 (京都大学)
- H10. 9.18 第1回幹事会
(名古屋大学工学部)
- H11. 1.19 第2回幹事会 (大阪市内)
- H11. 4.20 第2回研究会
(木津川京田辺地区)
- H11. 5.18 第3回幹事会 (京都市内)

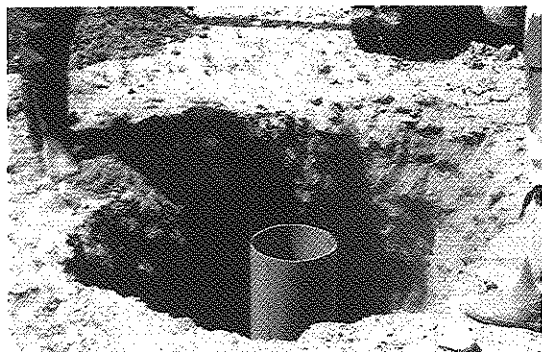
H11. 6. 4 第3回研究会（京都大学）

H11. 8.25 打合せ会議（大阪市内）

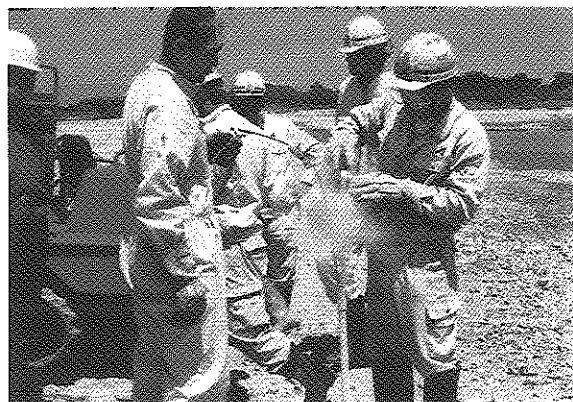
H11.11.18 第4回研究会（京都大学）

H12. 2. 7 第4回幹事会（京都市内）

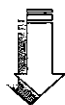
H12. 3.28 第5回研究会（京都大学）



写真－13 着色砂柱設置による河床変動調査
Photo 13 River bed Deformation Survey by
Setting Up Stained Sand Spout



写真－14 凍結コアサンプリング状況
Photo 14 Frozen Core Sampling



写真－15 採取されたコア
Photo 15 Core Sample

○北川研究グループ

H11. 4. 8 第1回研究会（福岡市内）

H11. 5.19～ 5.20 第2回研究会および第
1回現地視察

H11. 6. 9 第1回幹事会

（リバーフロント整備センター）

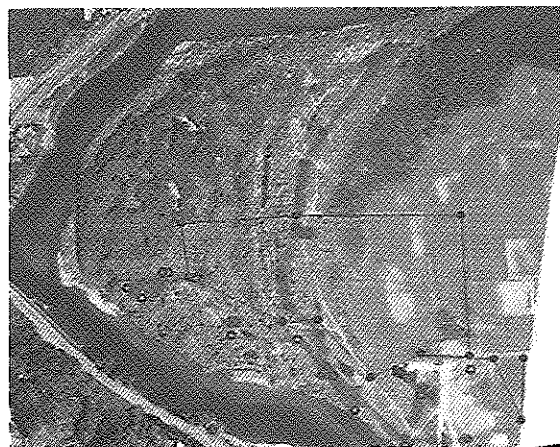
H11. 6.25 第3回研究会（福岡市内）

H11. 8.10 第2回幹事会（福岡市内）

H11. 9.21 第2回現地視察会

（北川河～熊田地区）

H12. 2. 1 第4回研究会（福岡市内）



写真－16 マルチテレメトリーによる追跡
調査状況

Photo 16 Multi-Telemetry Follow-Up Survey



写真－17 現地視察の状況
Photo 17 Onsite Observation Study

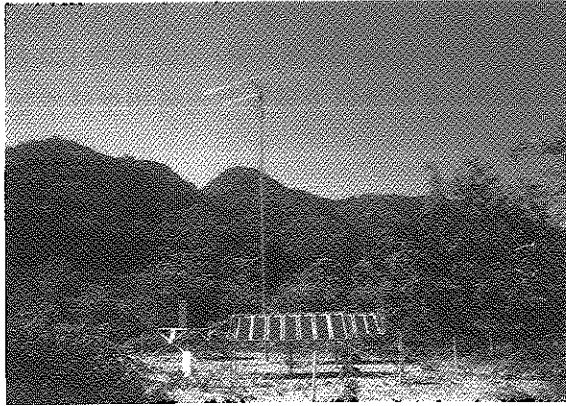


写真-18 的野地区に設置された
テレメトリー施設

Photo 18 Telemetry Facilities Setup in the
Matono District

○合同発表会

H10. 12. 11 第1回合同発表会（全国町村議員会館）出席者約 100 名
多摩川研究グループ、千曲川研究グループ
を中心に成果の発表が行われた。

<発表内容>

- ・各研究グループの概要報告
- ・多摩川・千曲川の河川特性（建設省土木研究所 環境部河川環境室長 島谷幸宏）
- ・河床変動・土砂輸送と植生変化とのかかわり
—千曲川（犀川）と多摩川の共通点、相違点—
（建設省土木研究所 河川部河川研究室長 藤田光一）
- ・木津川の河川特性
（名古屋大学教授 辻本哲郎）
- ・多摩川研究グループ
「水と付着藻類」（東京都立大学教授 渡辺泰徳）
「底生動物」（東京大学助手 加賀谷隆）
「陸域化とニセアカシア植生の変遷の関係」
（東京農工大学助教授 星野義延）
- ・千曲川研究グループ
「水と付着藻類」（信州大学教授 沖野外輝夫）
「鳥類の植生」
（信州大学助教授 中村浩志）
「水生昆虫の羽化と河川敷の昆虫」
（信州大学教授 藤山静雄・信州大学教授 吉田利夫）

H11. 12. 17 第2回合同発表会（全国町村議員会館）出席者約 150 名
千曲川研究グループ、木津川研究グループ
を中心に成果の発表が行われた。

<発表内容>

- ・各研究グループの概要報告
- ・千曲川水系における窒素負荷発生量と河川水質の変遷（信州大学助教授 戸田任重）
- ・千曲川における付着藻類の生産力について
（信州大学教授 中本信忠）
- ・洪水が植物群落に与えるインパクトの実体とその発生機構（建設省土木研究所 河川部河川研究室研究員 服部敦）
- ・木津川砂州域の生態系を支える物理環境
—テンポラリーな空間—（名古屋大学教授 辻本哲郎）
- ・たまりや伏流水中の底生動物の分布様式と物質循環における砂州の役割（大阪府立大学助教授 竹門康弘）
- ・アリジゴクを通して見た木津川中州の環境
（京都教育大学教授 松良俊明）



写真-19 合同発表会（大島委員長あいさつ）

Photo 19 Joint Presentation (Greetings from
Chairman Oshima)



写真-20 合同発表会（総合討議）

Photo 20 Joint Presentation (General Debate)

○シンポジウム

H11. 3. 29 日本生態学会大会 自由式シンポジウム（信州大学）出席者約 100 名

「河川生態研究の現状と課題－河川生態学術研究会って何だろう－」

<発表内容>

- ・はじめに
～河川生態学術研究会の目指すところ～
（河川生態学術研究会委員長 財団法人自然環境研究センター理事長 大島康行）
- ・河床変動・土砂輸送と植生変化とのかかわり－多摩川と千曲川の共通点と相違点－
（建設省土木研究所 河川部河川研究室長 藤田光一）
- ・多摩川中流域の河川敷におけるニセアカシアの分布拡大 （東京農工大学助教授 星野義延）
- ・千曲川中流域における水生昆虫の羽化 （信州大学教授 吉田利夫）
- ・千曲川中流域における鳥類の生息環境と植生 （信州大学教授 中村浩志）

H12. 3. 25 日本生態学会大会 自由式シンポジウム（広島大学）出席者約 120 名

「多摩川永田地区で得られた河川生態学術研究の成果」

<発表内容>

- ・あいさつ
～河川生態学術研究会の目指すところ～
（河川生態学術研究会委員長 財団法人自然環境研究センター理事長 大島康行）
- ・イントロダクション（建設省土木研究所 環境部 河川環境室長 島谷幸宏）
- ・環境変化を規定した河道形状変化の原因分析
（建設省土木研究所 河川部 河川研究室長 藤田光一）
- ・底生生物の河床平面分布と水理ハビタット
（東京大学助手 加賀谷隆）
- ・希少種としてのカワラノギクの変遷と河道変化（明治大学助教授 倉本宣）
- ・安定同意対比からみた物質の流れと生物との相互作用（日本大学専任講師 上田眞吾）
- ・多摩川の風景と生態系の変化－多摩川第1期研究の総括－（建設省土木研究所 環境部 河川環境室長 島谷幸宏）

6. 名簿（平成 12 年 3 月現在）

〔河川生態学術研究委員会〕

委員長 大島康行（財団法人自然環境研究センター理事長）

委員 沖野外輝夫（信州大学教授）、奥田重俊（横浜国立大学教授）、小倉紀雄（東京農工大学教授）、小野勇一（九州大学名誉教授）、川那部浩哉（琵琶湖博物館館長）、桜井善雄（応用生態学研究所長）、玉井信行（東京大学教授）、辻本哲郎（名古屋大学教授）、中村太士（北海道大学助教授）、西村登（兵庫陸水生物研究会代表）、三島次郎（桜美林大学名誉教授）、水野信彦（愛媛大学名誉教授）、山岸哲（京都大学教授）、和田英太郎（京都大学生態学研究センター長）（以上、五十音順）

西島浩之（建設省河川局河川環境課長）、清治真人（建設省河川局治水課長）、宇多高明（建設省土木研究所河川部長）、佐合純造（建設省土木研究所環境部生態保全技術研究官）、島谷幸宏（建設省土木研究所環境部河川環境研究室長）、藤田光一（建設省土木研究所河川部河川研究室長）

・運営委員会

委員長 山岸哲（京都大学教授）

委員 大島康行（財団法人自然環境研究センター理事長）、沖野外輝夫（信州大学教授）、小倉紀雄（東京農工大学教授）、小野勇一（九州大学名誉教授）、辻本哲郎（名古屋大学教授）、水野信彦（愛媛大学名誉教授）（以上、五十音順）

島谷幸宏（建設省土木研究所環境部河川環境研究室長）、藤田光一（建設省土木研究所河川部河川研究室長）

・多摩川研究グループ

代表 小倉紀雄（東京農工大学教授）

上田眞吾（日本大学専任講師）、大島康行（財団法人自然環境研究センター理事長）、大野博之（応用地質株式会社）、奥田重俊（横浜国立大学教授）、加賀谷隆（東京大学助手）、君塚芳輝（淡水魚類研究者）、倉本宣（明治大学助教授）、坂上寛一（東京農工大学教授）、玉井信行（東京大学教授）、寺田美奈子（神田外語大学教授）、戸田光彦（財団法人自然環境研究センター研究員）、原田俊司（新日本気象海洋株式会社）、藤井猛（株式会社野生動物保護管理事務所）、星野義延（東京農工大学助教授）、渡辺邦夫（埼玉大学教授）、渡辺泰徳（東京都立大学教授）（以上、五十音順）

・千曲川研究グループ

代表 沖野外輝夫（信州大学教授）

桜井善雄（応用生態学研究所長）、武田昌昭（信州大学技官）、戸田任重（信州大学助教授）、中村浩志（信州大学教授）、中本信忠（信州大学教授）、長田健（国立長野工業高等専門学校非常勤講師）、花里孝幸（信州大学教授）、平林公男（信州大学助教授）、藤山静雄（信州大学教授）、朴虎東（信州大学助手）、細谷和海（水産庁中央水産研究所内水面利用部魚類生態研究室長）、山本雅道（信州大学助手）、山本満寿夫（信州大学助手）、吉田利男（信州大学教授）、渡辺義人（応用生態学研究所分室主任研究員）（以上、五十音順）

・木津川研究グループ

代表 山岸哲（京都大学教授）

角野康郎（神戸大学助教授）、北村忠紀（名古屋大学助手）、近藤高貴（大阪教育大学教授）、桜谷保之（近畿大学教授）、鷺見哲也（名古屋大学助手）、竹門康弘（大阪府立大学助教授）、谷田一三（大阪府立大学教授）、

辻本哲郎（名古屋大学教授）、中島拓男（滋賀県琵琶湖研究所上席総括研究員）、長田信寿（京都大学助手）、長田芳和（大阪教育大学教授）、西野貴子（大阪府立大学助手）、原田守博（名城大学助教授）、松良俊明（京都教育大学教授）、三田村緒佐武（滋賀県立大学教授）、本川雅治（京都大学助手）、森哲（京都大学助手）（以上、五十音順）

・木津川研究グループ アドバイザリースタッフ

池淵周一（京都大学教授）、江頭進治（立命館大学教授）、江崎保男（姫路工業大学教授）、遠藤彰（立命館大学教授）、村上興正（京都大学助手）、森下郁子（社団法人淡水生物研究所長）、山村則男（京都大学教授）、鷺谷いづみ（東京大学教授）（以上、五十音順）

・北川研究グループ

代 表 小野勇一（九州大学名誉教授）
岩本俊孝（宮崎大学教授）、菊屋奈良義（社団法人大分野生生物研究センター副理事長）、楠田哲也（九州大学教授）、三枝豊平（九州大学教授）、杉尾哲（宮崎大学教授）、田川日出夫（鹿児島県立短期大学長）、竹下直彦（水産大学校講師）、松井誠一（九州大学助教授）、矢原徹一（九州大学教授）、山西博幸（九州大学助手）、湯川淳一（九州大学教授）（以上、五十音順）

・建設省土木研究所

島谷幸宏（環境部河川環境研究室長）、藤田光一（河川部河川研究室長）、脇坂安彦（環境部土質研究室長）

・事務局

建設省河川局河川環境課、建設省河川局治水課、建設省関東地方建設局京浜工事事務所、建設省北陸地方建設局千曲川工事事務所、建設省近畿地方建設局淀川工事事務所、

建設省九州地方建設局延岡工事事務所、宮崎県延岡土木事務所、財団法人リバーフロント整備センター

＜引用参考文献＞

＊河川生態学術研究会（2000）川の自然環境の解明に向けて 河川生態学術研究の概要 財団法人リバーフロント整備センター